

平成 29 年度

姫路市高校生議会 会議録

平成 30 年（2018 年）2 月 3 日

姫 路 市 議 会

目 次

出席高校生議員	1
事務局職員出席者	2
会議に出席した市長、職員及び市議会議員	2
議事日程	3
川西議長あいさつ	4
出席者紹介	4
高校生議長あいさつ	5
議席の指定	5
会議録署名議員の指名	5
会期の決定	5
一般質問	5
1 黒田晃大議員（姫路高等学校）質問	5
「姫路市の医療の活性化について」	
石堂厚生委員会委員長答弁	6
黒川副市長答弁	7
黒田晃大議員質問	8
黒川副市長答弁	9
2 土居紀香議員（琴丘高等学校）質問	9
「高校生や大学生のための自習室の設置について」	
川島文教・子育て委員会委員長答弁	10
3 藤澤郁音議員（飾磨高等学校）質問	10
「高校生が安い料金で利用できる宿泊施設の整備」	
阿山建設委員会副委員長答弁	11
内海副市長答弁	12
藤澤郁音議員質問	13
内海副市長答弁	13
4 西田望花議員（姫路高等学校）質問	14
「外国人観光客増加の対策について」	
石見市長答弁	15
5 都出茉莉花議員（琴丘高等学校）質問	15
「地元企業による高校生の職業体験合宿の実施について」	
梅木経済観光委員会委員長答弁	16

中杉教育長答弁	17
都出茉莉花議員質問	17
中杉教育長答弁	18
6 福本うらら議員（飾磨高等学校）質問	18
「『飾磨高校独自の福祉実習施設』の設置について」	
中杉教育長答弁	19
7 小林朱鈴乃議員（琴丘高等学校）質問	20
「インスタグラムを活用した姫路市の宣伝について」	
汐田総務委員会委員長答弁	20
8 八杉龍笙議員（飾磨高等学校）質問	21
「『姫路市立大学』の設立について」	
内海副市長答弁	22
高校生議長あいさつ	23
市長講評	23
木村副議長あいさつ	24



姫路高等学校



琴丘高等学校



飾磨高等学校

出席高校生議員（43人）

1番	藤澤 勇亮	(飾磨高等学校)	23番	小林 陽斗	(飾磨高等学校)
2番	三宅 健士朗	(飾磨高等学校)	24番	八杉 龍笙	(飾磨高等学校)
3番	石井 陽	(琴丘高等学校)	25番	友重 惠里郁	(飾磨高等学校)
4番	土居 紀香	(琴丘高等学校)	26番	福本 うらら	(飾磨高等学校)
5番	澤田 未羽	(姫路高等学校)	27番	野村 恵里	(飾磨高等学校)
6番	西田 望花	(姫路高等学校)	28番	朝日山 奈緒	(琴丘高等学校)
7番	前田 栞南	(姫路高等学校)	29番	稲田 あやの	(琴丘高等学校)
8番	星野尾 友斗	(飾磨高等学校)	30番	内海 七星	(琴丘高等学校)
9番	播戸 飛雄馬	(飾磨高等学校)	31番	小林 朱鈴乃	(琴丘高等学校)
10番	春尾 歩生	(琴丘高等学校)	32番	三田 夏菜多	(琴丘高等学校)
11番	平山 優奈	(琴丘高等学校)	33番	喜多 花恋	(姫路高等学校)
12番	都出 茉莉花	(琴丘高等学校)	34番	藤本 依音	(姫路高等学校)
13番	金川 蒼弥	(姫路高等学校)	35番	橋本 貴志	(姫路高等学校)
14番	山下 紗弥	(琴丘高等学校)	36番	黒田 晃大	(姫路高等学校)
15番	山本 果鈴	(琴丘高等学校)	37番	粉原 美吹	(琴丘高等学校)
16番	神浦 亜美	(飾磨高等学校)	38番	冨田 唯	(琴丘高等学校)
17番	藤澤 郁音	(飾磨高等学校)	39番	西村 馨	(琴丘高等学校)
18番	橋本 杏香	(飾磨高等学校)	40番	松本 夏歩	(琴丘高等学校)
19番	林 史織	(姫路高等学校)	41番	東郷 陽	(飾磨高等学校)
20番	戸川 奈柚	(姫路高等学校)	42番	高倉 花鈴	(飾磨高等学校)
21番	藤原 愛	(琴丘高等学校)	43番	山田 百華	(飾磨高等学校)
22番	三好 凜	(琴丘高等学校)			

事務局職員出席者

事務局長	和田達也	主任	浦上博史
次長	樫本公彦	主事	赤鹿裕之
調査課長	平石正彦		

会議に出席した市長、職員及び市議会議員

市長	石見利勝	議長	川西忠信
副市長	内海将博	副議長	木村達夫
副市長	黒川優	議会運営委員会 委員長	杉本博昭
教育長	中杉隆夫	議会運営委員会 副委員長	有馬剛朗
		総務委員会 委員長	汐田浩二
		総務委員会 副委員長	妻鹿幸二
		文教・子育て委員会 委員長	川島淳良
		文教・子育て委員会 副委員長	塚本進介
		厚生委員会 委員長	石堂大輔
		厚生委員会 副委員長	東影昭
		経済観光委員会 委員長	梅木百樹
		経済観光委員会 副委員長	森由紀子
		建設委員会 副委員長	阿山正人

議 事 日 程

2月3日（土）

午前 10 時 開 会

- 川西議長あいさつ
- 出席者紹介
- 高校生議長あいさつ
- 開 会

日程第1 議席の指定

日程第2 会議録署名議員の指名

日程第3 会期の決定

日程第4 一般質問

- 閉 会
- 高校生議長あいさつ
- 市長講評
- 木村副議長あいさつ

川西議長あいさつ

○川西忠信議長（登壇）

皆さん、おはようございます。

姫路市議会議長の川西でございます。姫路市高校生議会の開催に当たりまして、ごあいさつを申し上げます。

このたびの姫路市高校生議会は、市立 3 高校合同生徒会と姫路市議会の共催であり、本日は、市立 3 校から 43 名の皆さんに高校生議員として出席をいただきました。

皆さんは、勉強やクラブ活動で、大変お忙しい中にもかかわらず、本日の開催に向けて熱心にご準備をいただきました。本当にありがとうございます。

また、この高校生議会開催に当たりましては、大変ご多忙の中にもかかわらず、ご協力をいただきました石見市長を初め、市当局の皆様、そして市立 3 高校の先生方や関係者の皆様方に、改めましてこの場をお借りいたしまして、心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、この高校生議会は、未来を担う高校生の皆さんに、模擬議会を通して、市政や市議会活動への関心や理解を深めてもらうとともに、皆さんがお住まいの地域の課題や将来のまちづくりについて、質問や提言をいただくとともに、そういったものを、我々市議会議員も、市議会も一緒になって考え、そして学んでいこうと開催をしたところでございます。

本日の開催に当たり、事前に皆さんからの質問項目を拝見いたしましたが、バラエティに富んでおり、私も非常に楽しみにしているところでございます。

議場ということで、皆さんも幾らか緊張されるかとは思いますが、高校生らしく堂々と思いついてこの質問、発言をぶつけていただきたいなというふうに願っているところでございます。

本日の答弁は、石見市長を初め、副市長、教育長の皆さんはもちろんですが、普段質問する立場にある、我々市議会議員も何問かの答弁に立たせていただくことになっておるところでもございます。

今回の高校生議会在、皆さんの将来にとって、そして姫路市の未来にとって有意義なものになりますことを心から祈念をいたしまして、始めのごあいさつとさ

せていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

出席者紹介

○平石正彦調査課長

次に、皆さんと向かい合って座っておられる答弁を行う側の出席者を紹介したいと思います。

司会者のほうから順に紹介いたしますので、恐れ入りますが、その場でご起立いただきたいと思ひます。

皆さんから向かって左側のブロック、1 列目右、石見市長でございます。

内海副市長です。

黒川副市長です。

中杉教育長です。

2 列目になります。

先ほどあいさついたしました、市議会 川西議長です。

市議会 木村副議長です。

議会運営委員会 杉本委員長です。

同じく、議会運営委員会 有馬副委員長です。

次に、右側のブロックになります。

総務委員会 汐田委員長です。

同じく、総務委員会 妻鹿副委員長です。

文教・子育て委員会 川島委員長です。

同じく、文教・子育て委員会 塚本副委員長です。

2 列目に移ります。

厚生委員会 石堂委員長です。

同じく、厚生委員会 東影副委員長です。

経済観光委員会 梅木委員長です。

同じく、経済観光委員会 森副委員長です。

建設委員会 阿山副委員長です。

なお、本日、建設委員会委員長は欠席させていただいております。

それでは、これから高校生議会の議長にバトンタッチして進めていきたいと思ひます。高校生議長は、市立 3 校の生徒会から、あらかじめ選出いただいております。

飾磨高等学校の山田百華さんをお願いいたします。議長席へ移動をお願いいたします。

それではお願いいたします。

高校生議長あいさつ

○山田百華議長

おはようございます。

開会に先立ちまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日ここに、平成 29 年度姫路市高校生議会が招集されましたところ、高校生議員の皆様、そして市議会各常任委員会の委員長様、副委員長様、石見市長を初め、市の幹部の皆様には、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、市立高等学校 3 校から 43 人の高校生議員が参加し、その中から 8 人が代表して姫路市の施策に対する質問を行う予定となっています。

答弁者の皆様におかれましては、高校生議員が各グループで真剣に議論し、考えた質問や提案であることをご理解いただき、真摯にご答弁いただきますようよろしくお願い申し上げます、開会のごあいさつとします。

△午前 9 時 50 分開会

○山田百華議長

ただいまから、平成 29 年度姫路市高校生議会を開会します。

これより本日の会議を開きます。

これより日程に入ります。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程に記載のとおりであります。

日程第 1

議席の指定

○山田百華議長

まず日程第 1、議席の指定を行います。

議席は議長において、ただいまご着席のとおり指定します。

日程第 2

会議録署名議員の指名

○山田百華議長

次に日程第 2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、

姫路高等学校 金川 蒼弥 議員

琴丘高等学校 石井 陽 議員

飾磨高等学校 星野尾友斗 議員

を指名します。

日程第 3

会期の決定

○山田百華議長

次に日程第 3、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

今回の高校生議会の会期は、本日 1 日間としたいと思います。

これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○山田百華議長

ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

日程第 4

一般質問

○山田百華議長

次に日程第 4、一般質問を行います。

発言の通告に基づき、指名します。

登壇の上、ご発言願います。

姫路高等学校 金川 蒼弥 議員

黒田 晃大 議員

橋本 貴志 議員

藤本 依音 議員

喜多 花恋 議員

以上、5 人の高校生議員を代表しまして、36 番 黒田晃大議員。

○黒田晃大議員 (登壇)

姫路高校 2 年 黒田晃大です。

僕たちからは、姫路市の医療の活性化についての質問をさせていただきます。

僕たちは、平成 19 年に市内で発生した、救急搬送時における救急車のたらい回しの事案について、なぜこのような事案が起こってしまったのかという疑問と、今後このような痛ましい事案が発生しないようにする

には、どうすればよいかを調査・検討しました。

調査をしていたところ、姫路市は隣接する他市に比べて急病センターの夜間診療受け入れ時間が長く、他市から市内へ搬送される救急患者数が多いことがわかりました。このことが要因で、本来は市民に提供されなければならない医療の機会が減っているのではないのでしょうか。

実際、消防局の方々にお話を伺っても、姫路市の人口は徐々に減少している一方で、高齢化が進み、救急車の出動回数は、年々増加していたり、緊急対応の担当医が専門分野外であったため、病院への受け入れが難航し搬送におくれが生じているそうです。このことが原因で救急隊員の救急車内での仕事が増加し、また、患者さんの不安や後遺症が大きくなるなど、救える命の数が減少してしまっているのではと考えると、とても痛ましく思います。

そこで、僕たちがお願いしたいことは、他市からの救急搬送等の受け入れ数を減らしてほしいというものではありません。逆に、より一層、他市からの救急患者を受け入れてほしいというものです。先ほど述べさせていただいたとおり、姫路市は、他市からの救急患者の受け入れ数が非常に多いです。

それは、市内だけでなく、市外の在住者においても姫路市の病院なら救ってもらえるのではないかという思いのあらわれだと思います。ですから、姫路市は、先に挙げた、他市からの救急患者搬入者数が非常に多いということをデメリットとするのではなく、姫路市のメリットとして位置づけ、より一層、姫路市の医療をアピールし、また国や県、他の病院などと協力し、医療の質を上げてほしいです。

そうすることで、市民に提供できる医療の質も高まり、貴重な市民の生命が救われ、安心して生活ができることにもつながると願っています。

具体的には、市の予算を活用して名医をお呼びすることや医者数をふやしたり、県と交渉して病院の数や病床数、施設を確保することです。そして、このことを全国にアピールすることが重要だと思います。また、今後の市民の意見、時代の変化、予算に合わせて柔軟に対応できるような医療体制をとってほしいです。

実例として、これまでも、岡山県岡山市において

は、大病院の数が多いという恵まれた医療資源のもと、最先端の医療技術をもって質の高い医療サービスを受けることができ、多くの生命を救ってきたという実績があります。

姫路市も、この例にならい、2013年度から運行が開始されたドクターヘリや市内の2つの三次医療機関を併合し「県立はりま姫路総合医療センター（仮称）」が設置されることを最大限に活用し、医療都市としての位置づけを確約できるほど、医療の質を高めてほしいです。もちろん、市内には大学病院がないことや、病床数は県が管理していること、財政上の問題でなかなかうまくいくことばかりではないと考えられますが、姫路市がこれからも必要である町、必要とされる町であってほしいというのが市民の願いです。

姫路市は、先の事案後、一時的に救急搬送時、病院への救急患者の受け入れがスムーズになったものの、救急患者数の増加に伴って、ベッドの満床、手術中、医師不足などにより、姫路市の救急医療は、危険な状態にあると思います。しかし、二度とあのような痛ましい事案が発生しないようにするために、一刻も早い対応を検討することが必要なのではないのでしょうか。

○山田百華議長

これより答弁を求めます。

石堂厚生委員会 委員長。

○石堂大輔厚生委員会委員長（登壇）

議員ご質問中、私からは、1項目めの姫路市の医療の活性化のうち、救急医療体制の充実部分についてお答えをいたします。

本市におきましては、全国的にも利用者数が多い休日・夜間急病センターを有し、また、救急搬送患者数についても他圏域からの流入が流出を大きく上回るなど、従来から高い救急需要が続いてきたところでございます。

そのような中、平成19年に救急搬送のおくれから患者が死亡される救急搬送困難事案が生じました。市としてもこの事態を重く受けとめ、今後再びこのような事案が起こらないよう、平成21年3月に策定をした「姫路市の救急医療方策に関する指針」に基づき、本市の救急医療体制の充実を図ってきたところでございます。

特に、市民病院を有しない本市におきましては、直

接医師や病床を確保することなどは困難であることから、医師の定着化を図るための臨床研修医奨励金制度の創設や救急病院における医師確保への財政的支援、また、不要不急の救急を減らし必要な患者に対応するため、救急医療フォーラム等での普及啓発や救急医療電話相談事業など、救急医療を守るための環境整備に努めてまいりました。

そのため、今日では、比較的軽症の患者に対応する休日・夜間急病センターや休日の在宅当番医、また、姫路赤十字病院や姫路医療センター、姫路聖マリア病院など入院・手術が必要な患者に対応できる救急病院、高度な治療が必要な重症患者に対応する県立循環器病センター及び製鉄記念広畑病院の救命救急センターが、それぞれの特色を生かし、緊密な連携と役割分担を図りながら、市民に対し質の高い救急医療の提供が図られているところでございます。

また、現在、県立姫路循環器病センター及び製鉄記念広畑病院の統合再編に伴う新県立病院の整備計画が進められておりますが、救急医療の充実や全国から医師・医療従事者が集まるリーディングホスピタルを目指すことなど、中播磨・西播磨圏域の医療課題を解決するさまざまな取り組みが盛り込まれております。そのため、この新県立病院の整備は、本市のみならず当該圏域における地域医療を飛躍的に向上させる、またとない好機であると考えております。

このような新県立病院の整備など救急医療を取り巻く新たな動向や近年の医療状況の変化など、それらを踏まえ、姫路市では、本年度、姫路市の救急医療方策に関する指針の見直しに取り組んでいるところでございます。

今後、兵庫県等と連携しながら、新たな指針に掲げる推進方策を果敢に推し進め、市内医療機関への支援を着実に実行し医療環境の整備を図ることで、播磨地域の連携中枢都市として全国に誇れる救急医療体制の構築を目指してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○山田百華議長

黒川副市長。

○黒川優副市長（登壇）

議員ご質問中、私からは、1項目めの姫路市の医療

の活性化のうち、「救急車たらい回しによる痛ましい事案が再びおこらないように」の部分について、お答えを申し上げます。

まず、本市における救急搬送の現状についてでございますが、過去5年間では2万5,000件から2万6,000件程度へと推移をしており、増加傾向となっております。

また、救急搬送の内訳でございますが、過去5年間の平均では、重症以上6.7%、中程度44.1%、軽症が49.2%と、救急搬送の約50%が軽症となっております。

また、ご指摘の6回以上の病院照会を行った「受け入れ困難事例」でございますが、姫路救命救急センターの開設前の平成24年では、全体の3.3%でしたが、開設をされました25年には、2.7%に減少し、平成28年には1.7%となっております。

このような状況を踏まえると、救急件数は増加傾向にありますが、内容としては軽症が多く、さらに、受け入れ困難事例も減少をいたしておる状況でございます。

ただ、本市におきましても、今後はさらなる高齢化が予想されており、救急需要の増加は避けられないものと考えております。今後とも救急搬送を的確に行なうためには、市民の方々により一層の適正利用を促すこと、救急搬送が必要な方には、より早く現場に到着すること、応急処置等を適切に行うこと、迅速に病院へ搬送することという4つのポイントが重要であると考えております。

そこでまず、救急車の適正利用の普及啓発につきましては、平成28年5月から、姫路市のホームページに救急受診ガイドを開設をいたしております。これは、パソコン操作で傷病の重症度や緊急度について適切に判定することにより、救急車の必要性についての判断指標となるものでございます。この利用が促進されることによりまして、緊急性のない軽症による搬送が減少し、医療機関への受け入れがスムーズに行えると期待をいたしております。今後におきましても、救急受診ガイドの利用について広報をしてまいります。

次に、いかにして早く現場に到着するか、でございます。本市では、5つの消防署があり、それぞれ管轄区域を定めておりますが、救急隊に関しては、管轄区域

にかかわらず、災害現場に一番近い直近の救急車が出動することといたしております。例えば、救急出動からの帰還中でありましても、救急要請があれば、対応が可能であれば、管轄にかかわらず出動し、いち早く現場に到着できるよう努めております。

本市では、119番通報があってから現場に到着するまで、平成28年は平均6分38秒となっており、今後1秒でも早く到着できるよう努力してまいりたいと考えております。

次に、適切な応急処置等について、でございますが、救急隊員の応急処置等のレベルアップを図り、少しでも傷病者の方の救命率を向上させるため、救急ワークステーション事業を推進をいたしております。この事業は、救急隊員が出動態勢を整えた状態で、救急車とともに医療機関に待機をし、待機中に医師等から実習等を受け、より高度な知識や技術を習得するものでございます。

実習中でありましても、救急要請があれば出動できるため、救急隊員が病院実習等で不在となることがなく、同時にレベルアップも図れるメリットがございます。

実習を通して、医師や看護師等、医療関係者との連携や意思疎通も図られ、市民の方々の救命率の向上に大きく貢献できるものと考えております。

現在市内では、聖マリア病院と製鉄記念広畑病院の2カ所で実施をいたしております。

最後に、迅速な病院搬送について、でございますが、現在、兵庫県において、ICT、いわゆる情報通信技術を活用し、県下全体での救急隊の搬送状況や病院の受け入れ状況などが確認をできる「救急搬送支援システム」の構築が検討されております。このシステムによって、さらにスムーズな搬送が行えるものと期待をしており、早期の導入につきまして、兵庫県に強く要望をしてまいりたいと考えております。

本市といたしましては、このような取り組みを行うことで、救急医療に寄与し、円滑な救急体制を構築することにより、さらなる救命率の向上を目指してまいります。

以上でございます。

○山田百華議長

黒田晃大議員。

○黒田晃大議員

答弁ありがとうございました。

先ほど、姫路市のホームページにおいて、姫路市救急受診ガイドを利用できるとの答弁でしたが、僕たちは緊急時におけるホームページからのシステム利用は検索や閲覧に時間がかかってしまい、想像以上に手間がかかってしまうのではないかと考えます。そこで、僕たちから提案があります。

それは、姫路市民が緊急時に最短の時間で必要な医療を受けるためのアプリケーションを開発並びに提供することだと考えます。

例えば、姫路市救急受診ガイドの内容だけでなく、各病院の診療体制情報と、この診療にかかわる外来担当医の医師情報の対応状況、季節ごとに流行している病気、生活習慣病などの注意喚起の情報等を瞬時に閲覧可能な機能を備えたアプリを提供することです。そうすることで緊急時にホームページを利用するよりも簡単かつ迅速に、より適切な自己判断をすることができ、救急車の適正利用につながると思います。

それだけでなく、市民の健康の保持増進につながったり、救急搬送のうちの約5割を占めている軽症患者の方々が今まで以上に自力で病院に行くことができ、救急車の出動回数の削減などにつながると思います。また、医療機関においてもこのアプリを利用する、つまり先ほどおっしゃられていた救急搬送システムとして導入することにより、病院の空き情報を市内だけでなく、近隣の救急隊と共有することで、姫路市内の病院に瞬時に向かえるようになると思います。さらに、病院の受け入れ態勢の情報をデータとして集めることで、病床数や医師不足の把握などに役立つと考えます。

以前にお聞きしたところでは、県が一般向けに外来担当医の情報をホームページにて公表しているとおっしゃっていましたが、緊急時に積極的に利用されるところまで行ってはいないのではないのでしょうか。また、病院と消防が空き情報を共有するシステムでは、各病院において情報の更新等がリアルタイムに変更されることが難しく、そのことが各情報のおくれを発生させている要因とも考えられるのではないのでしょうか。

このような問題を解消するためにも、アプリを使っ

て、より手軽に情報収集並びにそのデータ更新ができるようにすることや、姫路市が担当のスタッフを病院に配置することで情報の更新頻度を高め、救急搬送システムとの併合をすることが必要だと思えます。

このことについても答弁をお願いします。

○山田百華議長

黒川副市長。

○黒川優副市長（登壇）

市民が速やかに医療を受けるためのアプリケーションを開発・提供してはどうかというご提案だと思えます。ありがとうございます。

少し、市民の皆様方への受診ガイドについて、現状をもう少し詳しく申し上げたいと思えます。

姫路市では、先ほど申しました姫路市の救急受診ガイドとあわせて、総務省の消防庁が今年の5月に開発をいたしました全国版の救急受診アプリ「Q助（キュースケ）」というソフトがございます。

姫路市におきましては、我々が持っております救急受診ガイドをあわせて、その消防庁のですね、Q助というものにつきましても利用促進に向けた市民啓発を行っております。

このQ助、これにはですね、パソコン版とあわせて、スマートフォン版、スマホ版がございます。市民の皆様さん方には、このスマートフォンにアプリをダウンロードすることによって、緊急度の判定を支援をし、利用できる医療機関や受診手段の情報提供を行い、緊急に救急車を呼ぶ必要がある場合には、これワンタッチで救急車が呼べるという、そういうアプリでございます。またですね、ご指摘のインフルエンザ流行情報、あるいは生活習慣病などにつきまして、これも情報を得るためのアプリ、たくさん普及をいたしております。

これらのツールにつきましても、緊急時はもちろんのこと、普段から市民の皆様さん方に閲覧をしていただくことにより、救急車の適正利用の啓発や疾病への予防に役立つと考えられますので、市民の皆様の利用促進が図れるよう広報するとともに、先ほどご提案をいただきましたアプリにつきましても、より活用しやすいアプリが提供できるよう、調査研究をしてみたいと考えております。

救急搬送システムにつきましては、先ほど、答弁の中でもお答えを申し上げましたが、ICTを活用した救急搬送支援システムの導入によりまして、人的負担を増加させずにリアルタイムの情報が得られるなど、さらに迅速な救急搬送が可能になるものと期待をいたしておりますので、このシステムの早期導入に向けて、さらに取り組みをまいりたいと考えております。

以上でございます。

○山田百華議長

以上で、姫路高等学校 黒田晃大議員の質問を終了します。

琴丘高等学校 石井 陽 議員
土居 紀香 議員
藤原 愛 議員
三好 凛 議員

以上、4人の高校生議員を代表しまして、4番 土居紀香議員。

○土居紀香議員（登壇）

琴丘高等学校2年の土居紀香です。私からは1点、質問をさせていただきます。それは、高校生や大学生の自主学習がはかどるよう、勉強できる自習室をもっと設置してはどうかということについてです。

現在、姫路市では、主に市民会館や各図書館が学校や自宅以外の自主学習の場として利用されています。利用する理由としては、静かで、勉強に対して高い目的意識を持った人たちと同じ空間に身を置くことで、自分も勉強に対して強い意欲と集中力を持てることが挙げられます。

しかし、その両方の施設とも、すぐに席が埋まってしまう、席数が足りないのが現状です。私も実際に利用しようと何度か市民会館を訪れたことがありますが、毎回既に、近隣の高校の生徒たちで満席となっており、引き返すしかありませんでした。これについては、本校の生徒にも聞き取り調査を行いました。私と同様の体験をし、もっと席があればと望んでいる人が多くいることがわかりました。

そこで、私たちが提案するのは、新しくたくさんの方が勉強できる自習室を設置することです。例えば、市内の空き店舗や、いわゆるシャッター商店街となっている場所から施設の提供を募集し、自習室に生まれ

変わらせるというのでしょうか。

群馬県渋川市には、実際にそのような自習室「すたでいばんく」が存在します。渋川市は、駅前にある空き店舗を放課後に無料で利用できる自習室として生まれ変わらせ、学生が安心して勉強できる環境をつくり、同時に地元への愛着を持てるような施策をつくり上げました。確かに、地元の方々に見守られながら勉強できるという環境は、自宅で家族に見守られて勉強するのに近い安心感があり、勉強もはかどると考えられます。姫路市も、ぜひこのような自習室をたくさん設置するべきだと思います。そうすれば、自身の学習の成果を上げながら、同時に地元との結びつきを感じ、地元への愛着を持つことができると思います。

また、新しく設置した姫路市内の自習室の空席状況や予約方法などを姫路市のホームページで一括管理し、スマートフォンを通じて予約ができ、前述のように遠路足を運んだのに利用できずに帰る、というリスクがないようにできないでしょうか。

姫路市は、小中学校に対しては、小中一貫教育など、進んで取り組みを行っているように思いますが、次世代を担う高校生や大学生に対する教育的取り組みも、市が目向けるべき大切な事柄ではないでしょうか。

私からの質問並びに提案は以上です。高校生や大学生のための自習室の設置について、ご回答をお願いいたします。

○山田百華議長

これより答弁を求めます。

川島文教・子育て委員会 委員長。

○川島淳良文教・子育て委員会委員長（登壇）

私からは、土居紀香議員からご質問の、高校生や大学生のための自習室の設置について回答いたします。

本市の教育におきましては、「ふるさと姫路の未来をひらく人づくり」を基本理念に、未来を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境の実現を目指し、ふるさとを愛し地域の発展に主体的に貢献する人間の育成に努めております。

次期学習指導要領の実施や高大接続改革に見られるように、高校の教育を取り巻く環境は大きく変化しようとしています。

未来の予測が不可能な時代にあって、変化を前向き

に受けとめ、生徒みずから課題を見つけ、主体的に判断し、問題を解決していく生きる力の育成が求められています。

今後、幼稚園から高校までのつながりを大切に、これからの時代に求められる資質・能力を生徒にはぐくんでいくよう取り組んでまいります。

このたびの、空き店舗を高校生や大学生が利用できる自習室に活用してはどうかとの提案についてですが、姫路駅から姫路城にかけての地域は、本市の中心市街地に位置づけられており、古くより商業、行政機能が集積し、都市機能の中核をなす重要な地域となっております。近年、モータリゼーションや少子高齢化の進行により、地方都市の市街地は衰退傾向にあり、居住人口の減少とともに、空き店舗等の増加による商業機能の低下が懸念されております。本市においても中心市街地での空き店舗を減らすため、商店街等に対する支援を積極的に行っているところであります。

このたびの提案につきましては、中心市街地に若者を呼び寄せ、にぎわいを創出する大変有意義なものであると考えております。

しかしながら、商店街における空き店舗の活用については、本来の目的である商業の活性化のほか、有効な方法も考えられることから、ご提案の自習室としての活用につきまして、どのような仕組みづくりが可能か、商店街の方々とも協議しながら検討したいと考えております。

以上でございます。

○山田百華議長

以上で、琴丘高等学校 土居紀香議員の質問を終了します。

飾磨高等学校 星野尾友斗 議員

播戸飛雄馬 議員

神浦 亜美 議員

藤澤 郁音 議員

橋本 杏香 議員

以上、5人の高校生議員を代表しまして、17番 藤澤郁音議員。

○藤澤郁音議員（登壇）

姫路市立飾磨高等学校の藤澤郁音です。

私たちは、高校生が安い料金で利用できる宿泊施設の建設について質問します。

私たちは、文武両道を目指し、運動部・文化部で3年間活動してきました。部活動を通して、自分の成長を実感し、協調性や感謝する気持ちの大切さを学びました。部活動を通して得たものは、私たちの人生の支えになってくれると確信しています。

活動の中で、高いレベルのチームと対戦し、自分たちの力を上げるために県外に遠征することもありました。遠征には多額の費用がかかるのですが、県外には、スポーツ施設に併設した宿泊施設があり、高校生・中学生は、1,000円以下で宿泊でき、遠征費を抑えることができました。しかし、姫路市にはそのような宿泊施設がなく、県外のチームが姫路市に来るときは、仕方なくホテルを利用することが多いようです。そのため、県外のチームを集めた姫路市主催の大規模な交流試合がほとんどないのが現状です。

全国の政令指定都市8都市にはスポーツ施設に併設した宿泊施設があります。姫路市と同じ中核都市9都市、旭川市、いわき市、宇都宮市、富山市、呉市、松山市、高知市、長崎市、鹿児島市にも同様の宿泊施設があります。特に新潟市、浜松市、熊本市、呉市、富山市には、中学生・高校生が1,000円以下で宿泊できる施設があります。

姫路市にもこのような施設があると、全国の強豪チームに姫路市を来てもらいやすくなり、姫路市の中学校・高校の部活動のレベルアップにつながります。また、全国の中学生・高校生に姫路市を訪れてもらうことにより、姫路市の魅力に触れる機会をつくることにもなります。それはきっと、将来もう一度姫路市を訪れてくれるようにもなり、観光客増加にもつながると考えます。

姫路市には、現在、バレーボールのヴィクトリーナ姫路や、サッカーのASハリマアルビオンの2つのプロチームがあります。このようなチームがもっと姫路市にふえ、姫路の子どもたちが一流のプロに触れる機会がふえると、もっと成長できるはずです。姫路の町全体も活性化すると思います。

しかし、どのスポーツでも優秀な人材がより高いレベルを求めて姫路市以外の高校へ進学しています。野

球では、豊富中学校出身の岡本健選手が、神戸国際高校に進学し、ソフトバンクホークスで活躍しています。バスケットボールでは、琴陵中学校出身の田村未来選手が、愛媛県の聖カタリナ高校に進学し、その後ユニバーシアード日本代表に選ばれました。

姫路市にいても全国レベルの試合が経験できる機会がふえれば、このような人材の流出も食い止められると思います。

手柄にあるウィンク体育館や総合スポーツ会館を含め、手柄山中央公園一帯を再整備する計画があると聞きました。この基本計画を見てみると、整備における5つの視点の1つ目には「スポーツの拠点としての整備」とあり、「大規模なスポーツ大会を開催できる本格的なスポーツ施設の整備を行う。市民がトップスポーツを観戦し、生涯スポーツの参加意欲を高め、競技レベルを向上させることができるようスポーツ推進計画と整合を図りながら、新たなスポーツ施設の整備を目指していく。」と書いてあります。この計画に書いてあることを実現するため、手柄山のスポーツ施設を初め、具体的にどのような施設を整備する予定なのか教えてください。そして、整備したスポーツ施設が有効に活用されるには、姫路市に来てもらった選手たちに利用してもらえる宿泊機能が必要ではないでしょうか。ぜひ宿泊設備を整備してほしいと考えます。いかがでしょうか。

質問は以上です。前向きな回答をお願いいたします。

○山田百華議長

これより答弁を求めます。

阿山建設委員会 副委員長。

○阿山正人建設委員会副委員長（登壇）

私からは、藤澤議員のご質問中、手柄山中央公園の再整備についてお答えいたします。

手柄山中央公園は、昭和41年に姫路城の「昭和の大修理」の完成を記念して開催した姫路大博覧会のメイン会場として大規模な開発を行い、以降、時代の流れの中で求められる整備を重ねてまいりました。

現在、姫路球場や中央体育館、陸上競技場などのさまざまなスポーツ施設を初め、文化センターや水族館、温室植物園、平和資料館など多様な文化教養施設が集まる姫路市随一の総合公園として、年間約180万人の

方にご利用をいただいております。

ご質問にありました本公園の再整備計画は、「手柄山中央公園整備基本計画」という名称で平成 28 年度に策定いたしました。

この計画は、園内施設の老朽化や文化センターの移転、J R の新駅整備の構想等への対応として、施設の新設、移転、統廃合や、J R 新駅との接続、施設間の動線の検討などについて定めたものであります。

計画策定に当たりましては、「感動と笑顔あふれる憩いの交流空間の創出」を整備コンセプトとして、「スポーツの拠点としての整備」、「平和と学びの拠点としての整備」、「緑豊かなやすらぎの拠点としての整備」、「防災拠点としての整備」、「公園全体の魅力と利便性を高める整備」の 5 つの視点から検討いたしました。

事業期間につきましては、平成 37 年度までを第 1 期整備として公園北西部を、平成 38 年度以降を第 2 期整備として公園東部を整備する計画としており、第 1 期は主にスポーツ施設を、第 2 期は文化教養施設の整備を予定しております。

スポーツ施設につきましては、設備の充実した本格的な体育館や、全天候型屋内競技用 50 メートル及び 25 メートルプールなどを新たに整備するよう計画しております。

これらスポーツ施設の周辺には、J R 新駅構想があることから、姫路駅とのアクセスが飛躍的に向上いたします。これにより、市内のみならず遠方からの来場が容易になるとともに、姫路駅周辺の飲食店や宿泊施設が利用しやすくなるため、市内外から大勢の競技者、観客を迎えての大規模なスポーツ大会を楽しんでいただけるようになると考えております。

また、充実した設備でトップアスリートの育成を図るなど、姫路市のみならず、播磨一円の一大スポーツ拠点となるよう、幅広く活用してまいります。

文化教養施設につきましては、文化センターを姫路駅前に移転し、その跡地に植物園と緑の相談所を移転・統合する計画であります。水族館と近くなることで両方の施設を訪問することが容易となり、慰霊塔、平和資料館とあわせて平和と学びの拠点を形成いたします。

そのほかには、レストハウスを新設し、食事や休憩

など憩いの時間を過ごしやすくするとともに、手柄山遊園の廃止に伴い、跡地に遊具を備えたチビッコ広場を整備するほか、回遊性の高い散策路の整備も検討しており、安らぎの拠点としての機能も充実させてまいります。

さらに、災害時には広域防災拠点として活用するため、防災設備を充実させるとともに、緊急車両の移動にも配慮して設備を配置いたします。

以上のように、本計画により手柄山中央公園は、スポーツ施設を中心に、多機能な魅力あふれる施設が集まり、これまでより、より一層利用しやすく、幅広い世代の皆様楽しく過ごしていただける総合公園へと生まれ変わろうとしております。

今を生きる我々だけでなく、将来の世代にも永く利用していただけるよう、市議会と市役所がともに力を尽くして、充実した整備をしっかりと行ってまいります。

以上でございます。

○山田百華議長

内海副市長。

○内海将博副市長（登壇）

私からは、手柄山中央公園におけるスポーツ施設の整備に合わせた宿泊施設の整備についてお答えいたします。

文武両道を目指し、真摯に部活動に取り組む藤澤議員、飾磨高校の皆さんを初めとした多くの高校生の存在は、姫路市として心強く感じており、将来の活躍を大いに期待するところです。

まず、皆さんがご指摘のように、スポーツ施設内にあわせて設置する、あるいは施設周辺での宿泊施設の新たな設置は、他府県からの遠征試合やスポーツ合宿など、スポーツ施設のさらなる利用を見込むことができること、また、全国の強豪チームとの交流は、本市の中高生の競技力の向上やトップアスリートの育成につながるものと考えています。

しかしながら、宿泊施設をどう運営していくかということを見長い目を見た場合、年間を通しての利用を見込むことは難しく、経費に見合う効果はどうか、また、民間事業者との役割分担等を考えると、行政による宿泊施設の整備・運営は課題が多く、得策ではないと考

えています。

一方、手柄山中央公園内に整備予定の新体育館は、同時期にJR新駅も計画されており、姫路駅からの利便性も向上するため、大会や合宿の際には、姫路駅周辺に数多く立地するホテルに宿泊することにより、スポーツ施設の利用とあわせて、地域経済の活性化にもつながることが期待されます。

今後は、スポーツ大会などで姫路に来られた皆さんが多く利用している宿泊に係る助成金の拡充や、多数の方々宿泊する際の民間ホテルへの割引を働きかける、あるいは市内の企業が持つ施設の利用の協力を求めるなど、宿泊費の負担軽減を図っていきたいと考えております。

このように、他府県からのスポーツ施設の利用者が、本市に宿泊しやすい条件を整えるとともに、姫路ゆかりのトップチームと触れ合うことができ、市内の中高生の競技レベルを向上させることが可能となるよう、機能が充実した体育館や屋内プールを整備し、姫路から日本を代表するようなアスリートが1人でも多く誕生するような取り組みを進めてまいります。

以上でございます。

○山田百華議長

藤澤郁音議員。

○藤澤郁音議員

宿泊施設の整備の意義についてご理解いただきありがとうございます。先ほどの答弁に対して質問させていただきます。

JRの新駅建設により、手柄山へのアクセスが改善されるという内容でしたが、ホテルの宿泊料金が高いままでは、姫路市に宿泊して試合に来る学校はふえないと考えます。また、宿泊に係る助成金や民間ホテルへの割引で対応すると言われましたが、具体的にはどれぐらいの金額での助成金や割引をお考えでしょうか。

私たちは、姫路に来る中学生・高校生がホテルのような個室に宿泊することを想定していません。畳の大広間や2段ベッドの大部屋のような簡易な宿泊施設を想定しています。布団の用意や清掃なども宿泊者に行ってもらうことで、コストの削減ができると考えます。私たちも、合宿などの集団生活を通して絆を深め、協調性を身につけました。また、市内の中学生・高校生

の利用も考えると、施設の稼働率は上がり運営が可能になると考えます。

そもそも、税金は何のために使われるのでしょうか。採算がとれるものにだけ使われるのでしょうか。姫路市の未来のためにこの宿泊施設は絶対に必要であると私たちは考えます。浜松市や呉市が運営できて、姫路市が運営できないということはないのではないのでしょうか。同世代との真剣勝負の中で私たちは技術力と人間力を磨きたいのです。

もう一度、宿泊施設の建設を検討していただけないでしょうか。

○山田百華議長

内海副市長。

○内海将博副市長

お答えいたします。

まず、宿泊に係る助成金や民間ホテルへの割引についてでございます。現在、姫路市の外郭団体である公益社団法人姫路観光コンベンションビューローという組織がありますが、そこで合宿等により市内に宿泊する場合、一定の条件のもとで1人当たり1泊300円、また全国大会などの大規模大会に対しては、1人当たり1泊500円を補助しています。

今後、この補助制度の拡充を検討するとともに、姫路駅周辺にある多くのホテルに宿泊しやすい料金設定、こういったことを働きかけていきたいと考えております。

なお、現在、安価で宿泊できる市の施設として、姫路市青山に収容数100人となる宿泊型児童館星の子館があります。また、手柄山の陸上競技場においても、収容数は50人なんですけど、ここは1泊500円で宿泊できる休養室が5部屋あります。平成28年度には、陸上競技の強化合宿などで約400人の利用者がありました。この陸上競技場、老朽化が進んでいるため、将来的には大規模改修を行う必要があり、その際に宿泊機能を備えた休養室の拡充を図りたいと考えております。

次に、宿泊施設を新設し、この施設を使ってさらなる自己研鑽に励みたいという皆さんの熱い思いは十分に伝わってきたところですが、姫路市においては多様な行政ニーズにこたえるべく、厳しい財政運営を行っており、現在ある公共施設についても全体のあり方を

根本的かつ適正に見直そうとしております。

そんな中で、新たな施設の整備には将来にわたって多額の経費を要することから、費用対効果の検証が強く求められ、慎重に検討する必要があります。このような状況にあつて、行政と民間の適切な役割分担を考へることも重要な観点であり、宿泊施設など、民間に担ってもらえる、あるいは協力していただけるものは民間にお願いするなど、公と民が協調しつつ、民間の活力を活用することが将来にわたって持続可能な行財政の運営に不可欠であると考えております。

ただ、質問の中にありました、税金は何のために使われるのか、どう使うべきかとの疑問は、非常に大切です。施設整備の是非についても、あったらいい、なぜないのかという発想に加えて、幅広い視点からの判断が求められるものと考えております。

以上でございます。

○山田百華議長

以上で、飾磨高等学校 藤澤郁音議員の質問を終了します。

姫路高等学校 澤田 未羽 議員
西田 望花 議員
前田 栞南 議員
林 史織 議員
戸川 奈柚 議員

以上、5人の高校生議員を代表しまして、6番 西田望花議員。

○西田望花議員（登壇）

姫路高等学校2年 西田望花です。

私からは、外国人観光客増加の対策について、質問をさせていただきます。

具体的には、着物レンタル店の広告設置ができるよう着物レンタル店と商業施設が提携するためにサポートすることを検討してはどうかというものです。

私は昨年、台湾とオーストラリアに行き、海外の人と話す機会がたくさんありました。そのたび、私は「姫路から来ました。」と言いましたが、相手の外国人は反応が薄く、姫路を知らないようでした。

帰国後、私は京都を訪れ、着物を着た人がたくさんいる華やかな町並みにとても感動しました。

このような経験から、私は城下町がある姫路にも着

物を取り入れ、華やかな町並みを世界に広めたいと考えました。

近年、姫路市は外国人観光客に対応できるよう、商業施設の方々が受けられるおもてなし英会話講座や、姫路市の子供たちが参加できる地元ボーイスカウトなどが設けられています。

そして、平成28年には外国人観光客をふやす目的として着物レンタル店がオープンしています。

しかし、平成28年の調査によると、姫路城を訪れる全観光客数のうち、外国人入城者数の割合が18%に対し、京都の二条城を訪れる全観光客数のうち、外国人の割合は、49.5%と同じ世界遺産に登録されているにもかかわらず約3倍の差があります。

京都の最近の観光客増加対策では、歌舞伎体験などの日本らしいユニークな体験を提供し、外国人向けのお得なフリーパスを豊富にそろえ、京都を訪れやすい工夫をしているようです。平成27年には「爆買い」という流行語があつたように、購買意欲の強い外国人観光客が多く見られましたが、最近では日本独特の体験を求めて旅行に来る外国人観光客が多いようなので、多くの体験ができる京都に観光客が集まるのだろうと考えます。

実際に、外国人観光客が日本で体験したいことランキングにおいて、1位 温泉、2位 歌舞伎、3位 着つけといった日本独特の体験がたくさん挙げられています。

一方、姫路市では観光客をふやすために姫路市観光交流局の体制を確立されています。着物レンタルについては、昨年夏に、着物レンタル・販売店から約1,000着を取りそろえ、プロのカメラマンと町歩きするイベントが開催されていたこともあつたと認識しています。

姫路市においても、着物レンタル店を広める対策として、商業施設の広告設置や姫路市の宿泊施設のホームページにも広告設置を検討すべきであると考えます。

ただ、着物レンタル店だけが利益を得るのではなく、この対策に携わるすべての企業が平等な利益を得ることが大変重要であると思います。

そこで、お手元に配付されている資料をご覧ください。私は例としてこのような資料を作成しました。右上の協力事業の欄にご注目ください。このようにすべての協力事業が記載されていることによって、協力事

業すべての宣伝につながり、平等に利益を得ることができると思います。

以上のことにより、着物レンタルの広告設置ができるよう着物レンタル店と商業施設が提携するためにサポートすることを検討するべきであると思います。以上です。

これについて答弁をお願いします。

○山田百華議長

これより答弁を求めます。

石見市長。

○石見利勝市長（登壇）

西田議員のご質問中、外国人観光客増加の対策についてお答えいたします。

平成 28 年の姫路城の外国人入城者数は、前年比 39.3%増の 36 万 2,000 人、日本全体の外国人観光客の伸び率 21.7%と比べますと大きく伸びておりまして、たくさんの外国人観光客の方々にお越しいただいております。中でも、欧米系の旅行客の伸び率が顕著であることが本市の特徴であると言えます。

このように増加傾向にある外国人観光客の訪日目的は、以前の買い物中心の「モノ消費」から、日本ならではの体験や思い出を求める「コト消費」に変わってきています。高級ブランド品や家電などの商品を購入するだけでなく、さまざまな体験を通して、日本に来たからこそ味わえる、特別な思い出づくりの観光が求められています。

華やかな着物姿で町なかを歩く、あるいは世界遺産・姫路城で記念撮影をするといった体験は、まさに姫路ならではの特別な思い出になることでしょう。西田議員のグループの皆さんがこの点に着目されたことは、とてもすばらしいことと思います。

本市では、今年度から、着物の着つけ体験やお茶席体験など、地域の魅力的な体験型の観光メニューについて、外国人専門家の目線で現地調査と分析を行い、パンフレットやウェブサイトで発信する事業を行っています。これによって、姫路城に加えて市内や播磨圏域を回遊する「姫路城プラスワン」作戦を促進し、外国人観光客の滞在時間の延長や満足度の向上を目指しています。

議員ご質問の、着物の着つけ体験で、着物レンタル

店だけが利益を得るのではなく、関連業者も潤うための広告設置のサポートを検討してはどうかについてありますが、着つけ体験を初めとする体験型の観光メニューは、民間がサービスを提供していることが多く、行政と民間の垣根を越えた連携が重要となります。

本市には、行政とともに姫路の観光振興に取り組んでいる公益社団法人姫路観光コンベンションビューローがあります。この法人が観光客のニーズに応じた事業を展開し、民間と行政の橋渡し役として観光関連業者との共同プロモーション等、きめ細かい事業を実施しております。

また、年間 2 万 3,000 人以上の外国人観光客が訪れる JR 姫路駅の中央コンコースにある姫路市観光案内所や観光情報サイト「ひめのみち」では、着つけ体験やかわらづくり、和菓子づくりなどのさまざまな体験型観光メニューを PR しています。

議員ご提案の広告を使った地域の潤う仕掛けにつきましては今後の参考とさせていただきます。

姫路市では、引き続き播磨圏域の観光素材を充実させていくとともに、訪れた方々が感動し、また訪れたいと感じていただけるように、「幸せ 感動 夢あるまち」を目指し、外国人観光客の満足度向上に向けた取り組みを進めていきますので、議員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

○山田百華議長

以上で、姫路高等学校 西田望花議員の質問を終了します。

琴丘高等学校 春尾 歩生 議員

平山 優奈 議員

都出茉莉花 議員

山下 紗弥 議員

山本 果鈴 議員

以上、5 人の高校生議員を代表しまして、12 番 都出茉莉花議員。

○都出茉莉花議員（登壇）

こんにちは、琴丘高等学校 2 年の都出茉莉花です。私からは 1 点、質問をさせていただきます。

質問内容は、地元企業による高校生の職業体験合宿の実施についてです。

単刀直入に言わせていただきますと、私は将来、絶

対に姫路に住み、姫路の企業で働こうとは思っていません。高校 2 年生も終わりに差しかかり、大学などの進路選択の岐路に立ちながら、実は、姫路の地元企業について、ほとんど知識がないというのが現状です。さらに、姫路市内には大学が少なく、県内の他市の大学や県外の大学に進学したとき、姫路の企業とはますます疎遠になっていく気がします。

国立教育政策研究所の平成 27 年度の調査によると、全日制・定時制の公立高校におけるインターンシップは 4,089 校中、3,344 校と 81.8%の高校が実施しています。また、愛知県が 2010 年から実施している「マイチャレンジ・インターンシップ」という公募制の事業では、それに参加した生徒のアンケートで 87%が「進路選択に役立った」、9 割以上が「学習意欲が高まった」、「コミュニケーション能力が高まった」と回答しました。このことから、高校生時代のインターンシップは学習意欲を高め、進路選択に大いに影響を与えると考えられます。

そこで、私が提案するのは、姫路市立 3 校を対象とした職業体験合宿です。トライやるウィークの高校生版と考えていただければ、わかりやすいと思います。合宿の流れとしては、高校生は市内のホテルに宿泊するか、それが無理であれば、参加企業の寮や各校の合宿所に宿泊します。そこから毎日各企業に出勤し、最終日には体験をもとにプレゼンテーションを行います。1~2 日だけの体験では仕事の表面しか体験できませんが、合宿を行えばより深い体験ができ、より社会人に近い毎日を過ごすことができます。また、各企業の指導員には姫路出身の新社員などの若い方を抜きしめていただき、宿舎ではミーティングや、社員の方の体験談を話していただいたり、逆にこちらから質問をしたりする時間も確保したいと思います。

合宿に参加することで、高校生は仕事に対して前向きに考え、将来の目標が見つかるかもしれません。また、参加する企業は自社の事業内容をアピールでき、将来の人材確保につながるかもしれません。姫路市にもおもしろい仕事があるということを、どんどんアピールするべきです。そしてこのことは、姫路市全体の発展に大いにプラスになるはずで

私からの質問並びに提案は以上です。地元企業によ

る高校生の職業体験合宿の実施について、ご回答をお願いします。

○山田百華議長

これより答弁を求めます。

梅木経済観光委員会 委員長。

○梅木百樹経済観光委員会委員長（登壇）

都出議員の質問について、私からは、商工労働行政の観点からお答えします。

現在、有効求人倍率や完全失業率など、雇用指標は大変好調に推移しています。その一方で、企業の人手不足の課題が深刻化しています。

姫路の企業は、特にものづくりの分野では、世界トップクラスの技術力を持ち、品質はどこにも負けないという企業、国内・国外に圧倒的な製品シェアを持つ企業など、優秀な企業が数多くあります。それらの企業に、姫路で学び、育った高校生の皆さんが就職し、働くことになれば、皆さん自身の仕事に関する誇りややる気、満足感が高められるだけでなく、人手不足の解消、地域経済の維持発展につながり、本当に素晴らしいことであると考えます。

しかしながら、最近企業の方からは、「地元出身の優秀な若者が入ってきてくれない。」という声を聞くことが多くなっています。これは、高校生の皆さんが地元企業のことをよく知らないことが原因ではないかと考えます。

そこで、ご提案のような職業体験ができれば、地元にもどんな企業があり、その企業では具体的にどのような仕事をするのか、その仕事のやりがいとは何かといったことを理解することができ、皆さん自身の財産になると思いますし、就職活動を行う際に、その体験が活かされるものと思います。

姫路市では、昨年秋に「企業・大学・学生マッチング」を開催し、最新技術を誇る地元企業 50 社と学生との交流を図っていただきました。100 名近くの市立高校生の参加もあり、地元企業とそのすぐれた技術を知ってもらえることができたと思っています。また、就職を考える年代の子どもがいる親を対象に、地元企業の魅力を伝えるセミナーも実施しました。このほか、魅力ある兵庫県の企業を紹介する冊子、「高校生のための企業研究ガイド」の作成に協力するなど、就職前の高校

生を初めとする若い人たちに地元企業の魅力を発信する取り組みを進めています。

今回の都出議員のご提案につきましては、教育委員会等と連携して取り組んでまいりますが、その実現には地元企業の協力・支援が不可欠と考えており、別途実施する予定の地元企業のインターンシップの開催支援やわかりやすい企業情報の発信の支援等とあわせ、企業へ積極的に働きかけてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○山田百華議長

中杉教育長。

○中杉隆夫教育長（登壇）

私からは、地元企業による高校生の職業体験合宿の実施についてのうち、教育委員会に係る部分についてお答えをいたします。

本市におきましては、企業や地域の人材を活用した体験活動を行うことにより、キャリア教育を推進しております。

姫路の市立高等学校においては、地元企業を見学する「ひめじ企業見学バスツアー」を実施しております。姫路市内の企業で働く現場の見学や企業担当者、従業員の方々との懇談などを通して、働くことの意味を認識するとともに、将来の進路に生かす機会としております。

また、地元の企業に協力をいただき、2年生の生徒が参加してインターンシップを実施している学校もございます。このように高校生が民間企業と連携した職業体験を行うことは、就労意欲の高揚につながりますし、企業が持つ技術のすばらしさやものづくりの大切さがわかり、地元企業の魅力の再発見にもつながるものと考えております。

次に、高校生の職業体験合宿についてでございますが、高校生の宿泊を伴うインターンシップについては、2～3日以内で実施している自治体が他府県にもあることから、学校と企業、地域が連携・協働して推進することは可能であると考えます。姫路市内の企業におきましても、宿泊とまではいかななくても、社会的貢献の一環として取り組んでいる企業も実際にございますので、教育委員会といたしましても、学校への紹介をし

てまいりたいと考えております。その際の宿泊施設といたしましては、市内の安価な宿泊施設や公共施設、また、市立高校のセミナーハウスなどを活用することが考えられます。

また、従来実施しているインターンシップを、夏休みなどの長期休業中に利用して数日間連続して行うことや、何回かに分けて実施することによりまして、実習内容が充実し、より深い体験が期待できるものと考えております。

今後は、職業体験を通して、市立高校だけでなく、市内の県立高校とも連携しながら、姫路市の高校生が地元の企業への理解を深めるとともに、夢を実現できるような取り組みを検討してまいりたいと考えます。

以上でございます。

○山田百華議長

都出茉莉花議員。

○都出茉莉花議員

ご回答、ありがとうございます。

先ほど、中杉教育長は、高校生の体験合宿を通じて、学校と企業、地域が連携・協働した教育活動を推進し、高校生の地元企業への理解を深め、夢を実現できるような取り組みを検討するとおっしゃいましたね。

私は、過去に、飾磨高校が実施しております「キャリア教育充実プロジェクト～高校生が紡ぐリアルメッセージⅡ～」という取り組みで、地元企業の方々にインタビューを行いました。電話でアポイントメントをとったのですが、そのときに学校の先生から、企業へ電話をする上での注意点や訪問するときの心構え、つまり、ビジネスマナーについて教えていただきました。地元企業に伺うということ、自身でもいろいろとマナーについて勉強したつもりでしたが、実際には知らないことばかりで、戸惑った経験があります。高校では、あいさつや身だしなみなどの基本的な生活習慣を身につけることはできます。しかし、社会で通用するビジネスマナーを学ぶ機会はほとんどありません。そのため、将来社会人として働いたり、地域の方々と円滑なコミュニケーションをとるためには、高校で一步踏み込んだビジネスマナー教育が必要です。

そこで、職業体験合宿を含めたインターンシップの実施を検討するに当たって、これを本市の高校生全体

のビジネスマナーに関するスキルアップのための好機ととらえ、あわせてそのようなビジネスマナーに関する教育の展開について検討できないでしょうか。

ご回答をお願いいたします。

○山田百華議長

中杉教育長。

○中杉隆夫教育長

今、ご質問のございましたビジネスマナーの教育についてということですが、ビジネスマナーというものは、本来社員研修において行われるものでございまして、あいさつや、あるいはおじぎの仕方といった基本的なものから、接遇、接客、あるいは電話対応だとか高齢者対応などをビジネス現場で必要となるマナーなどが多岐にわたっておりまして、それも職種や、あるいはそれぞれの職制などに応じて異なってまいります。

そのために、今、皆さん、高校生の皆さんが、今本当に身につけなければならない言葉遣い、あるいは敬語の仕方、あるいはコミュニケーション能力や表現力といったようなもの、そのようなものを平素の日常生活を通して学んでいくことが非常に大事だろうという風に考えております。

これらのことは、今皆さんが実際に学校の中である総合的な学習の時間や、あるいはホームルームの時間なども活用しながら、学校生活の中で行うことも可能ではないかという風に思っております。

ただ、ご指摘ございましたように、そういう企業との関係ということになりますと、今姫路市では、姫路市経営者協会、あるいは姫路市と公共職業安定所の連携支援機構、いわゆるわかものジョブセンターというものがございます、そこにおいてもビジネスマナー講座などが開かれているということを伺っておりますので、それらも含めてご活用いただければなという風に考えております。

以上でございます。

○山田百華議長

以上で、琴丘高等学校 都出茉莉花議員の質問を終了します。

飾磨高等学校 友重恵里郁 議員

福本うらら 議員

野村 恵里 議員

東郷 陽 議員

高倉 花鈴 議員

以上、5人の高校生議員を代表しまして、26番 福本うらら議員。

○福本うらら議員（登壇）

姫路市立飾磨高等学校2年、福本うららです。

私たちは、福祉介護人材育成のために、「飾磨高校独自の福祉実習施設」の設置について質問させていただきます。

近年、高齢化が進み、現在の姫路市における高齢者は姫路市の人口の約26%で、4人に1人が65歳以上です。私たちが40歳になる2040年には、32.7%で3人に1人が65歳以上となります。このままでは将来的に福祉人材の不足が懸念されます。

さらに、共働き世帯の増加や社会に福祉マインドを持った人が少ないことで、自宅での在宅介護をせず施設に高齢者を預ける傾向がうかがえます。これは、平成25年の姫路市地域福祉実態調査の介護中の悩みとして、「介護の技術・知識が乏しい」が4割を占めていることにもあらわれています。よって今より福祉人材が必要になると考えられ、人材の確保や育成、技術・知識の普及は早急に対応すべき課題だと考えます。

現在、私たち飾磨高校には3学年1クラスずつ健康福祉コースがあります。授業や実習で、社会福祉基礎や介護福祉基礎などについて学んでいます。私は施設実習に行き、介護士と利用者の触れ合いや介護士の心遣い、気配りを見ました。そして、介護士の仕事に興味を持ちました。実際の利用者との交流で学んだことや感じたことが多くあり、施設実習を行うことに意味があると確認することができました。

このコースでは福祉の知識を学ぶだけではなく、食事や起床、臥床介助などのさまざまな介助や車いす演習を行っています。ですが、今の福祉実習室では十分なスペースや設備がなく、施設実習で必要となる入浴介助や排泄介助が学びにくく、介護施設での実習に向けての演習も十分にできていない状況にあります。そして、施設実習の機会も3年間で4日しかありません。

これらの問題を解決するために、飾磨高校独自の福祉実習施設をつくっていただけないでしょうか。この

施設のイメージは、ベッドを13床置き、1クラス全員が演習に取り組みます。入浴設備も車いすのままに入ることができる大型のもの一般的な浴槽を設置し、さまざまな入浴介助を学べます。広いスペースをとったトイレも設置し、車いすからの移乗の練習をします。そして、広いフリースペースをつくり地域の高齢者や幼稚園児、小学生に来てもらい、地域全体が触れ合う機会をふやしたいと考えます。

例えば、地域の高齢者を招待して健康福祉コースが授業で学んだ知識を生かし交流を持ったり、地域の高齢者と子供たちの交流イベントなど行なったりします。高齢者がさまざまな交流をすることにより認知症の進行の抑制につながり、介護を必要とする高齢者の減少に一役買うことができます。また、健康福祉コースの生徒は施設実習と近い体験をすることができ、実習が少ないという問題を解決できます。ほかには、健康福祉コースの生徒が地域の方に介護講座を行うことで、在宅介護に必要な技術や知識を普及することができます。学校内もしくは隣接した場所に実習施設があることにより、授業の時間に実習を行うことができたり、介護施設の利用者をお招きすることができたりして、健康福祉コースの実習回数をふやすことができます。実習室を充実させることにより、介護に対する考え方を身近に感じることができます。

より本格的な専門性の高い学習によって、卒業後の進路に福祉・介護職を選択する生徒がふえ、福祉人材の増加にもつながると考えます。また、地域との交流により市民に福祉マインドが広がり、卒業後も姫路で暮らし、姫路を支える人材がふえると思います。そしてそれが「住みやすい町姫路」をつくっていくことになるのではないのでしょうか。

飾磨高校健康福祉コースの実習の充実、地域の活性につながる福祉実習施設の建設についてご回答をお願いいたします。

○山田百華議長

これより答弁を求めます。

中杉教育長。

○中杉隆夫教育長（登壇）

私からは、「飾磨高校独自の福祉実習施設」の設置についてお答えをいたします。

姫路の市立高等学校はそれぞれ、専門学科・コースを核とした魅力ある特色を持った学校づくりを推進し、学校に対する愛着、歴史や伝統なども踏まえまして、さまざまな分野で活躍できる人材育成を目指し、各校では一定の評価が得られているものと考えておりまして、教育委員会としても応援しているところでございます。

飾磨高校におきましては、今後さらに少子高齢化が加速していく中で、福祉に貢献できる人材を育成するため、健康福祉コースでの実習に日々努力いただいているところでございます。

しかし、現在の福祉実習室ではスペースや設備が十分でないとのことでございますので、ご提言のあった飾磨高校独自の福祉実習施設の設立については、新たな施設の建設に当たりまして、建設場所の確保や、また類型コースであることの現状なども踏まえまして、今後研究を進めてまいりたいと考えております。

そこで、1つのご提案でございますが、空き教室であるとか、あるいは利用頻度の少ない教室を集約し、新たなスペースが確保できるのであれば、その教室の一部を改修することで第2実習室を設置することは可能であると考えます。

また、地域の高齢者や幼稚園児、小学生に来てもらい地域全体が触れ合うためのフリースペースといたしましては、体育館や、また視聴覚教室の活用などが考えられはしないでしょうか。

いずれにいたしましても、現在ある学校の施設を有効に活用していただき、今後の実習において、必要な技術や知識の習得に役立てていただきたいと思います。

教育委員会といたしましても、学校とともにできる限りの協力はさせていただきます。

以上でございます。

○山田百華議長

以上で、飾磨高等学校 福本うらら議員の質問を終了します。

琴丘高等学校 朝日山奈緒 議員

稲田あやの 議員

内海 七星 議員

小林朱鈴乃 議員

三田夏菜多 議員

粉原 美吹 議員

富田 唯 議員

西村 馨 議員

松本 夏歩 議員

以上、9人の高校生議員を代表しまして、31番 小林朱鈴乃議員。

○小林朱鈴乃議員（登壇）

琴丘高校2年の小林朱鈴乃です。私からは、Instagramを活用した姫路市の宣伝について、1つ質問をさせていただきます。

私たちは、姫路市の観光客の内訳において、若い世代が増加するよう、若者の利用率の高いInstagramを活用してはどうかということに着目し、準備を進めていました。しかし、1月12日の神戸新聞に記載されたとおり、姫路市広報課が全く同様の取り組みを計画しており、3月からその運用が開始されることを知り、大変驚きました。そこで、その新聞記事から私たちがなりに考察をしたところ、不十分ではないかと思う点を幾つか見出しましたので、それについて質問させていただきます。

Instagramを姫路市の宣伝に活用することは、私たちも当初より考えていたことであり、大いに賛成です。しかし、投稿に対する姫路市の取り扱いに関しては、大いに不満があります。それは、「投稿の中から市が選んで毎月1名に賞品を贈る」という部分です。せっかく姫路市の観光を盛り上げるためにInstagramを活用しても、最後の落としどころが賞品の授与で終わりでは、余りにも上から目線の一方的なやり方であると言わざるを得ません。これでは、ただ流行に乗り、賞品を利用して参加者を引きつけようとしているだけのように思えます。この取り組みで姫路市が何を目指しているのか、明確には伝わってきません。

そこで、私たちから幾つかの提案をさせていただきます。まず第1に、投稿する写真には必ず撮影した場所と時間を記載するということです。すばらしい写真や投稿であっても、時間や場所がわからなければ、それを見た人が実際にそこへ行って、同じ風景を体験し、感動を共有することができません。たくさんの方が場所と時間を共有することで感動の共感が生まれ、また新たな出会いの輪が広がり、その地域の活性化にもつ

ながるのではないのでしょうか。

第2に、姫路市にゆかりのある有名人の参画による、宣伝効果の拡大です。姫路市出身のユーチューバーのヒカルさんや、人気インスタグラマーのみっき〜さんなどに協力を依頼し、ユーチューブやSNS上で紹介してもらえば、特に若者に対しては影響力が絶大です。

第3に、最後の落としどころです。一方的に賞品を与えて終わるのでは発展性がなく、利用者の共感を呼びません。投稿に対して利用者の側が投票し、毎月、半期、1年というくりで優秀作品を決定すべきです。また、駅前のイーグレやピオレ、みゆき通りなど、人が多く集まる場所に候補作品を展示し、立ち寄った人たちにその場で投票してもらう方法も考えられます。プレゼンテーションの大会の開催もいいでしょう。

昨年の流行語大賞「インスタ映え」にあらわされるように、Instagramは今後も若者を中心に利用率が伸びると予想されます。これをもっと幅広く活用し、一方通行ではなく、情報の共有や感動の共感が多くの人に広がり、ひいてはそれが姫路市の魅力の発信や観光事業の発展につながるよう、姫路市はもっと工夫を凝らすべきです。

私からの質問並びに提案は以上です。Instagramを活用した姫路市の宣伝について、ご回答をお願いします。

○山田百華議長

これより答弁を求めます。

汐田総務委員会 委員長。

○汐田浩二総務委員会委員長（登壇）

私からは、小林朱鈴乃議員からご質問の、Instagramを活用した姫路市の宣伝について回答いたします。

姫路市では3月1日から、姫路の知名度向上と市民の地元愛のさらなる高揚を図り、観光客の増加や地場産品の普及につなげることを目的として、若者に人気の写真共有型SNS、Instagramを使って、姫路市民や観光客の皆さんの参画により、姫路の魅力を全世界に発信してまいります。

今回、本事業に特に参画してほしいと願っていた若い世代の方に目をとめていただいたことは非常にありがたく、また、運用に関するご提案までいただき

たことに感謝いたします。

まずは、投稿の中から市が選んで毎月 1 名に賞品を贈るという取り組みで姫路市が何を狙っているのかという点でございますが、確かに多くの応募者を募るといった目的もございますが、冒頭で申し上げましたように、姫路市内の観光促進や地場産品の普及促進につながることも目的としております。

そのため、投稿者に贈る賞品につきましては、姫路の地元産品の認知度向上や観光客誘致目的となっているものを対象とし、市内の企業や店舗に提供の募集をかけております。

また、提供される賞品の内容等について、Instagramの公式アカウントを初め、ホームページやSNSを通じて動画等で紹介する予定であり、これにより地場産品等の認知度向上を図りたいと考えております。

次に、いただきました 3 点のご提案について回答いたします。

まず 1 点目の投稿する写真には必ず撮影した時間と場所を記載するについてですが、開設にあたり、投稿する条件の中に盛り込むことを検討しましたが、公式アカウントをフォローしてハッシュタグをつけて投稿するだけという手軽さを重視して、盛り込まないことにしたものです。

しかしながら、議員ご指摘のとおり、投稿を見た人が投稿者と同じ風景を体験することで、感動を共感でき、ネットワークが広がることは望ましいことと考えますので、手続きの軽さととのバランスを考慮しつつ、投稿状況を注視しながら検討していきたいと考えております。

次に、2 点目の姫路市にゆかりのある有名人の参画による、宣伝効果の拡大ですが、SNS 上で社会的影響力のある、いわゆるインフルエンサーと呼ばれる方を起用した宣伝については、昨今、広報戦略として民間を中心に導入されていると聞いております。

この広報戦略につきましては、確かに成功すれば絶大な影響力の発揮により効果が期待できる場合もありますが、必ずしもそうでない場合もあり、導入の前に十分な研究が必要であることが言われておりますので、まずは、民間や先進自治体での事例などから調査研究をしっかりと行っていきたいと考えております。

次に、3 点目の投稿に対して利用者の側が投票し、毎月、半期、1 年というくくりで優秀作品を決定すべきについてですが、議員ご提案の、人が多く集まる場所に候補作品を展示して投票を呼びかけることやプレゼンテーションの大会の開催等、いわゆるコンテスト形式による優秀作品の選定につきましては、多くの人の参画を促すという点で、選定の 1 つの手段として認識しております。

しかしながら、本事業は、姫路をPRする優秀作品の発掘ではなく、多彩な情報が集まることで、姫路の新たな魅力や再発見につながり、市民の皆さんの力で姫路をPRできる場となるように運用していくことに重きを置いております。

なお、コンテスト形式をとることの効果については、民間や他都市のいろいろな事例を参考に、十分な調査研究が必要であると考えております。

いずれにしても、情報発信のあり方、考え方はさまざまでございますが、ご提案の内容の検討も含めて、市民の皆様のご意見を伺いながら、本事業の効果が高まるよう引き続き検討・工夫を重ねていきたいと考えております。

また、地域の活性化には若い人の視点も不可欠であり、特に、Instagramについては、若い人を中心に利用が多いため、高校生の皆さんには、勉強の邪魔にならない範囲で、投稿を期待しておりますので、ぜひ、若い人目線での投稿をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○山田百華議長

以上で、琴丘高等学校 小林朱鈴乃議員の質問を終了します。

飾磨高等学校 藤澤 勇亮 議員

三宅健士朗 議員

小林 陽斗 議員

八杉 龍笙 議員

以上、4 人の高校生議員を代表しまして、24 番 八杉龍笙議員。

○八杉龍笙議員（登壇）

姫路市立飾磨高等学校 2 年 八杉龍笙です。よろしく申し上げます。

私たちからは、「姫路市立大学」の設立について質問

させていただきます。

私たちは、日々自分たちの進路実現のために勉学に励んでいます。生まれ育ったこの町が大好きで、将来はできれば姫路市内で就職したいと考えているので、進学先はまず姫路市内の大学に求めます。ですが現状、姫路市内には4つの大学しかなく、特に理系学生にとっては進学する場が兵庫県立大学しかないのも、市内での選択肢が限られます。ですから、市外の大学に進学する学生や、経済的にそれが難しい場合は進路を変更している学生が多いのが現状です。全国的に見ても、姫路市と同等の規模、人口45万人～60万人の中核市12市、その中で、市内の大学が4校以下のところは、3校の福山市、4校の尼崎市のみとなっており、あとの市は6校～10校の大学を市内に保有しています。

この中でも、姫路市は人口では3位なのですが、大学の数の保有数では10位という結果になってしまっています。また、市外に進学した先輩方々からは、進学先の町で就職活動をされるケースが多いと聞きます。実際、姫路市ではここ10年間、20代以下の人口減少は約8,000人で、30代以下の人口減少は約1万5,000人になってしまっています。これはやはり、姫路市内の大学を市民が選びにくいことが原因になっているのではないのでしょうか。

そこで、姫路市内で進学、就職する若者をふやし、町を活性化させる仕組みづくりとして、姫路市立大学の設立を提案したいと思います。姫路に残り、姫路の企業で働きたいと思っている学生は私たちを含め、大勢います。そんな姫路市の学生のための市立大学があれば、学生時代に姫路市のさまざまな取り組みに直接かかわることができ、町になお一層愛着を持って、姫路の町のために学び働ける人材がふえていきます。そしてそんな地元を愛する人たちが町に残っていき、町がどんどん活性化するのではないかと考えます。

具体的には、新設という案もあるのですが、市内に既にある大学を公営化し、それぞれの学部学科に理系学部、例えば第2次産業が盛んな姫路で働ける人材を育てる理工学部や農学部を加えて、姫路市立大学とするのはいかがでしょうか。公立大学化することで、学費が抑えられ、進学希望者がふえます。競争が激しくなるので、学生たちの学力も向上します。入学試験に

関しては、通常の国公立大学が行っている「分離分割法」でなく「独自日程」を採用することで、文系学生であれば市外の国公立大学、理系学生であれば同じ市内にある兵庫県立大学との併願も可能になります。学生たちに姫路市内の選択肢をふやすことができます。学生が姫路市民の場合は入学金が割安になる制度を設け、地元市民の入学を促します。

また、市立の大学であることを生かし、大学生だけではなく一般の方々も施設を利用できるようにしてみるのがいいと思います。具体的には大学の図書館や勉強スペース、音楽ホール、体育館、プールを開放したりしてみるのもいいと思います。学生がスマートフォンやパソコンなどの使い方を市内の高齢者の方々に教える教室を開くなどするのもいいと思います。このようにすると、大学としてだけではなく、市内の施設の1つとして、地域の活性化に貢献できる姫路市立大学をつくることを推奨します。

以上、若者の姫路離れに歯どめをかけ、地域の活性化に貢献できる姫路市立大学を設立することをご検討いただけないでしょうか。

前向きな回答をよろしくお願いします。

○山田百華議長

これより答弁を求めます。

内海副市長。

○内海将博副市長（登壇）

八杉議員のご質問にお答えいたします。

まず、全国状況を見ても、市や都道府県などが設置する4年制の公立大学89校のうち、市が単独で設置している市立大学は26校、中核市では48市のうち9市にあります。そして、それぞれの大学の設立の経緯を見ますと、地域の要請により新設したものや、公設民営方式の私立大学を公立化したもの、複数の大学の統合再編などさまざまな経緯・背景がございます。

このような中、現在、姫路市には、公立では兵庫県立大学の工学部と環境人間学部の2つのキャンパスがあり、また、私立では姫路獨協大学、姫路大学、姫路日本短期大学があり、あわせて4大学5キャンパスで、その入学定員の合計は約1,400人となっています。このうち姫路獨協大学は、「姫路に総合大学を」という、姫路市を中心とした中・西播磨84万住民の長年にわた

る地域の総意を背景に、36万人の署名や10億円に上る募金など、全市を挙げての大学誘致活動のもと、本市も開学に際して大学用地の提供や50億円を出資するなど、全国初の「公私協力方式」により昭和62年（1987年）に開学したものです。

以来、関東で知名度の高い「獨協」という名称のブランド力や大学経営のノウハウを発揮され、姫路獨協大学は開学30周年を迎えたところであり、市民の期待にこたえて、地域の人材育成に力を注いでいただいています。

八杉議員のグループの皆さんからご提案のあった、姫路市立大学の設立には、こうした姫路獨協大学開学の経緯や、少子化が進行する中での安定的な学生の確保、健全な学校運営の継続など、多くの課題があることから、本市としては残念ながら難しいと考えています。

しかしながら、既存大学における新学部の設置については、文部科学省の規制もありますが、地域に求められる人材を育成する観点からは望ましいものと考えています。姫路獨協大学では、平成18年に医療保健学部、平成19年に薬学部、平成28年に看護学部が設置されるなど、医療系の学部を中心とした学びの選択肢がふえてきています。今後も、市内の各大学に学部新設の動きがあれば、その判断を尊重しつつ、実現に向けた支援を行ってまいります。

また、姫路市では、高等教育の振興のため、市内4大学で学ぼうとする意欲のある学生の皆さんには、経済的な事情を抱える方などへの奨学金の給付や留学への支援、本市の施策の企画立案に対する研究助成事業を行っています。さらに、各大学においては、生涯現役社会の実現のため、学習意欲の高いシニア層を対象にしたシニアオープンカレッジなどの公開講座の開催のほか、図書館等の施設を開放していただくなど、日ごろから地域に多大な貢献をいただいております。

いずれにしても、市内で学べる大学に限りはありますが、皆さんが進学で一時的に姫路を離れたとしても、卒業後は生まれ育った姫路に戻って就職し、大好きな町で暮らしながら、地域を支え、地域社会で頑張っていこうという気持ちを大切にいただきたいと思います。そのため、市としましても、ふるさ

と意識の醸成に向けた取り組みを初め、市内企業の就職面接会や奨学金返還支援など、皆さんが地元で学び、働き、住み続けることができるよう、さまざまな施策を展開してまいります。

以上でございます。

○山田百華議長

以上で、飾磨高等学校 八杉龍笙議員の質問を終了します。

これで、一般質問を終了します。

以上で、本日の日程は終了しました。

お諮りします。

今回の高校生議会の案件はすべて終了しましたので、閉会したいと思います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議なしと認めます。

よって、平成29年度姫路市高校生議会は、これで閉会します。

△午前11時49分閉会

高校生議長あいさつ

○山田百華議長

閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日の高校生議会は、皆様にご協力いただいたおかげで、無事閉会することができました。

円滑な議事進行にご協力いただいた高校生議員の皆様に、感謝申し上げますとともに、高校生議員の質問に対し、真摯にご答弁くださった市議会議員の皆様、市長を初め、市幹部の皆様には、心からお礼を申し上げ、簡単ではありますが、閉会のごあいさつといたします。どうもありがとうございました。

市長講評

○石見利勝市長（登壇）

高校生議員の皆さん、本当にお疲れ様でした。傍聴いただきました皆様、本当にありがとうございます。

まず、全体的なことですが、本日は、高校生の立場、そして高校生らしい視点から、本市におけるさまざまな課題について、ご質問やご提案をいただ

きました。学生として勉学等に励む中、今回の質問事項の検討に加え、先日も、市立3高の合同生徒会で、「市立高等学校生徒会サミット」を開催したとお聞きしております。

まずは、そのような頑張りに、市政を推進する立場として、感謝と敬意を申し上げます。

また、グループで討議した質問の内容は、再質問の実施も含めて、本来の姫路市議会の本会議さながらの鋭いものであったと感心しております。

個別に見ても、例えば、空き店舗対策に寄与する自習室の設置、地元企業による職業体験合宿の必要性、また、スポーツ施設と合宿施設の整備、高校での福祉実習施設の設置、姫路市立大学の設置などは、高校生の立場から、普段学校生活を送る中で感じたことを、質問や提案としてまとめられた内容であったと思います。

我々も日ごろから議論を深めている、重ねている重要課題でありまして、見事な視点であったと思います。

ほかにも、県立病院に係る医療体制の充実、外国人観光客増加の対策やインスタグラムの方策などにつきましても、これもまた、市議会とともに議論していることでありまして、喫緊の課題であります。すばらしい内容であったと思っております。

今回の高校生議会に参加された皆さんは、姫路市、そして地域のため、また、社会のために何ができるか、いろいろと考え、感じられたことと思います。これらは、将来に向けた貴重な経験となります。今後、就職や進学など、さまざまな場面で、この経験を生かしていただくことを願っております。

そして、私たちも、きょういただいた提案を、可能なものは、実現に向けて努力したいと考えております。高校生の皆さんも、引き続き、行政や市議会の動きに興味を持ち、姫路市政に、そしてまた、姫路市の未来に関心を持ち続けていただきたいと思います。姫路市の未来を担うのは皆さんですから、きょうのこの機会を1つのステップとして姫路市の未来に関心を持ち続けてください。

最後に、高校生議会の開催にご理解とご支援をいただきました各学校の先生方、そして関係者の皆様、また、開催に尽力されました市議会議員の先生方、川西

議長を初め皆様に御礼を申し上げ、講評とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

木村副議長あいさつ

○木村達夫副議長（登壇）

皆さん、こんにちは。姫路市議会副議長の木村でございます。

高校生議員の皆さん、本当にお疲れ様でした。かなり緊張もされたかと思いますが、皆さん堂々と、姫路市の将来、あるいは課題などについて、鋭い視点から質問をされており、大変感心をいたしました。

我々、市議会議員も、答弁者側に座ることで、日ごろとは違った緊張感を覚えました。皆さんの思いに対し、精一杯、答弁させていただいたつもりでございます。

本日、姫路の未来を担っていく皆様に、市政について考えていただき、民主主義の根幹である議会を体験していただいたことは、我々や高校生議員の皆さんだけでなく、姫路市にとって、大変有意義な機会であったと思います。

皆さんには、このたびの経験を通じて、市政や市議会に対する関心をさらに深めていただき、ふるさと姫路のまちづくりに、積極的に参加いただければ、幸いです。そして、また数年後、この中の何人かの方が、実際にその席に座って、市民の声を直接ぶつけるような市議会議員になっていただくことを、切に願っております。

最後になりましたが、改めまして姫路市高校生議会開催に当たりまして、ご尽力いただきました関係者の皆様に、深く感謝を申し上げますとともに、高校生議員の皆様それぞれが、輝かしい未来を送られますことをご祈念いたしまして、閉会のごあいさつとさせていただきます。

本日はありがとうございました。

姫路市高校生議会の会議録に署名します。

姫路市高校生議会議長 飾磨高等学校 山 田 百 華

会議録署名議員 姫路高等学校 金 川 蒼 弥

〃 琴丘高等学校 石 井 陽

〃 飾磨高等学校 星野尾 友 斗

「姫路市高校生議会」会議録

発行年月 平成30年(2018年)3月

編集・発行 姫路市議会事務局